



すみだ川 アートラウンド

ARTs × SDGs でつながる

隅田川流域の民間組織

コレクティブ化構想

◎ 本事業は、令和元年度から令和3年度まで
本学が採択を受けた「Meeting アラスミ！」
（「2020の先にある新たな文化政策を実現するための
広域連携について思考し実践する人材育成講座
Meeting アラスミ！」）
を継承し、発展させる事業である。

◎ 「Meeting アラスミ！」では、
足立区、墨田区、台東区の3区の担当者とともに、
行政区域を超えた新たな文化政策のあり方として
「アラスミ・アーツカウンシル」を構想したが、
今回は、行政区域のさらなる拡大による
広域連携を目指すとともに、
未来の「アラスミ・アーツカウンシル」で
実際にさまざまなプログラムを行う
民間文化団体の連携を強化する
「民間組織コレクティブ化」を目指す。

体制図

主催/担当部署

東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻

《東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻について》
平成28年度新設専攻。キュレーション、アートマネジメント、
芸術文化の調査研究の領域においてグローバルな人材の育成を目的としている。

主な連携団体

谷中のおかって（台東区/一般社団法人）
ムジタンツ（足立区/任意団体）
音まち計画（足立区/NPO法人）
トッピングイースト（墨田区/NPO法人）
東京都公園協会（公益財団法人）
隅田川流域7区

事業概要

話し合う場

すみだ川アートラウンド・ラウンドテーブル

隅田川を舞台に展開するSDGsプロトタイプング

第三章：サーキュラー・リレーションシップ

◎連携団体：

トッピングイースト（墨田区/NPO法人）
東京都建設局河川部
東京都公園協会（公益財団法人） ほか

すみだ川アートラウンド・ハブ① 民間

◎参加団体：

OGUMAG+（荒川区）
ハタメキ（江東区）

すみだ川アートラウンド・ハブ② 行政

◎参加団体：

トッピングイースト（墨田区/NPO法人）
東京都建設局河川部
東京都公園協会（公益財団法人） ほか

実践の場

すみだ川アートラウンド・プラクティス①

子どもと地域

メインコーディネート：

ムジタンツ（足立区/任意団体）

◎フィールド提供：

あだち子ども支援ネット（足立区/一般社団法人）

◎アートプログラム提供：

谷中のおかって（台東区/一般社団法人）
LANDFES（江東区/NPO法人）

すみだ川アートラウンド・プラクティス②

高齢化社会・福祉施設とアートNPOのマッチングプログラム

メインコーディネート：

音まち計画（足立区/NPO法人）
藝と（墨田区/一般社団法人）

◎協力：

足立区社会福祉協議会（足立区/社会福祉法人）
墨田区社会福祉協議会（墨田区/社会福祉法人）
寺島・玉ノ井まちづくり協議会（墨田区/NPO法人）

育成する対象人材

流域で活動する民間事業者や非アート系NPO職員

アートマネージャー・学生など

育成の意義

非アート分野の対象者にとっては、アートとの連携によりSDGs課題に新たな側面からアプローチできる実感を得る機会となる。

SDGs×アートのプログラム企画運営の経験を有するアートマネージャーを育てる。

プログラム内容

隅田川流域で活動する事業者や個人・行政職員との対話を行い、生まれたアイデアを具体化して流域における地域内循環を実現していくことを目指す。

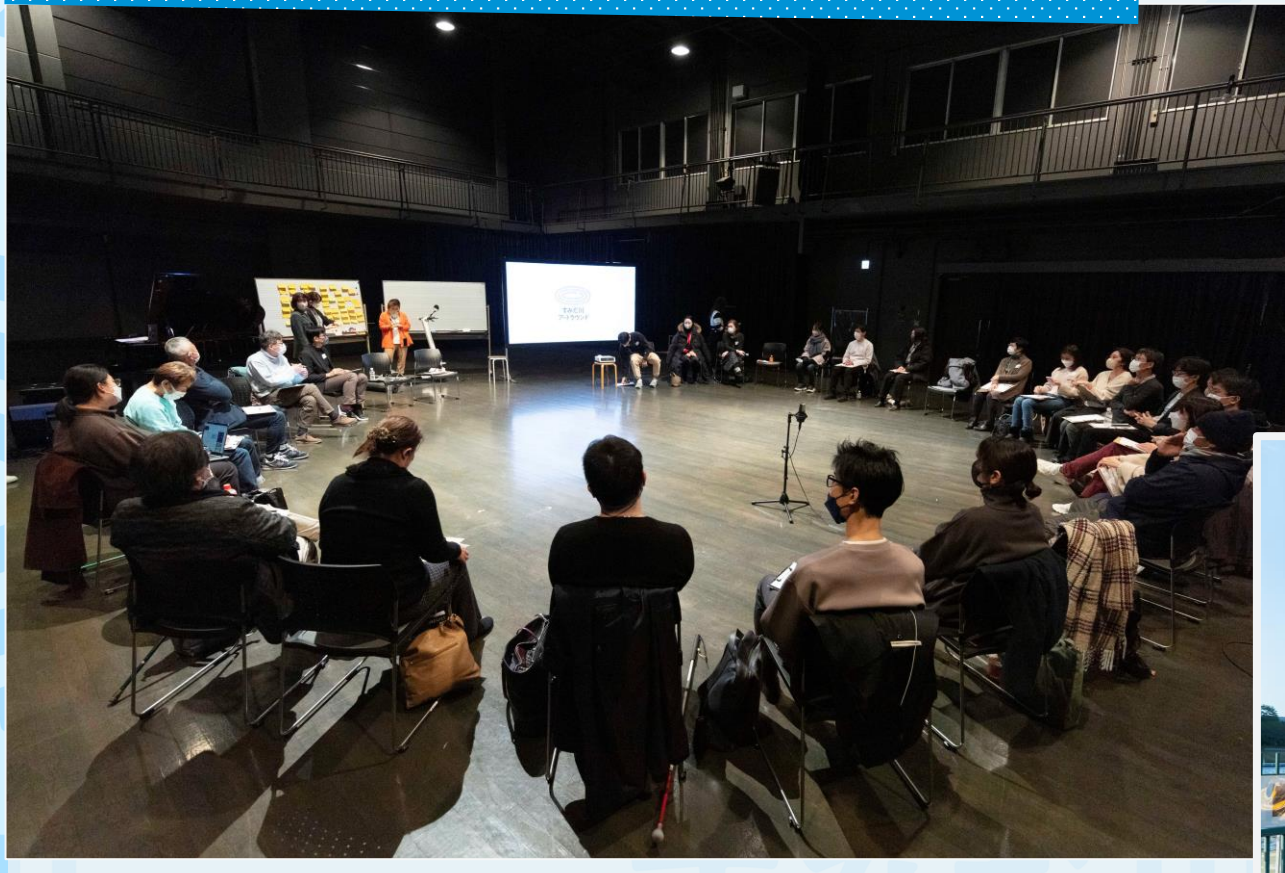
令和5年度事業における育成の成果

参加者たちは、「再生可能エネルギー」をテーマにした屋台制作ワークショップを通して、様々な分野の参加者と協働しながら、アート×SDGsプログラムの実践経験を得ることができた。

令和6年度事業における取組み

隅田川テラス各所で東京都公園協会が実施するイベントと連携。コンテンツの紹介、参加する事業者間のネットワーキングを行う。

ラウンドテーブル



ハブ① 民間



隅田川流域で活動するアートNPO

文化・芸術領域の中間支援組織や助成団体など

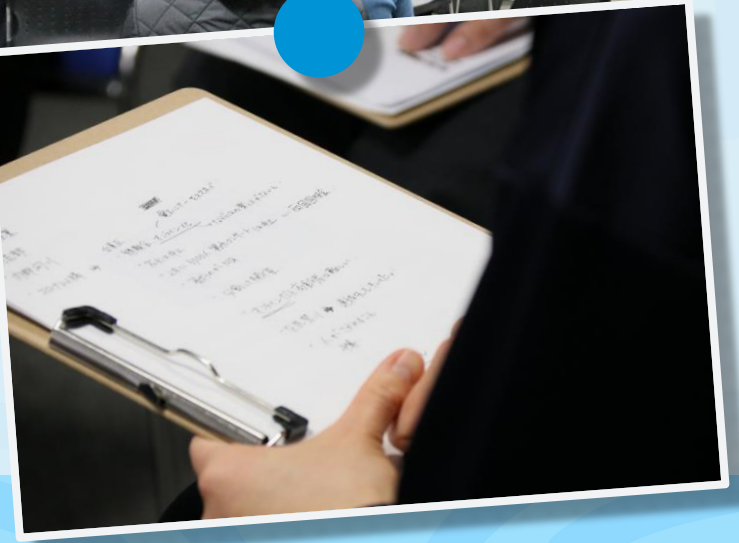
類似するアートNPOが相互評価するピアレビューを通じて、各々の活動に新たな視点を獲得することができる。また、評価を通じたネットワークの形成にもつながる。

流域7区のさまざまなアートNPOの情報交換の場を提供することで、各事業の活動に従事している人材の知見や思考を共有し、かつモチベーションの向上に繋げる。

昨年度にピアレビューに参加した一般社団法人藝と（墨田区）が、本事業の「プラクティス」のコレクティブに参画。

荒川区（OGUMAG+）・江東区（喫茶ハタメキ）で複合的な文化拠点をもつ団体による非公開ピアレビューを実施。その成果発表として、公開講座「すみだ川アートラウンド・ハブー 評価を通じて文化活動が出会う」（仮称）を行う。

ハブ② 行政



隅田川流域の文化振興や利活用推進に関わる行政職員

流域の行政職員が、隅田川におけるビジョンの実現に向けて、民間と協働しながらアートを積極的に施策に取り入れていく必要があることを認識する契機となる。

隅田川流域における文化振興や利活用促進等に携わる行政担当者を招き、対話の場を設けることで、将来的な広域連携の可能性を探るプログラム。

社会課題解決へ向けた従来手法にアートが掛け合わさることで、ユニークで効果的な課題へのアプローチが可能となることを行政職員が体感することができた。

東京都河川部等と連携し、「隅田川流域における中間支援組織のあり方研究会」（全5回程度）を実施。研究結果のアウトプットを公表する。

プラクティス① 子どもと地域



福祉系団体職員

アーティスト（芸大生含む）

アートマネージャー

福祉とアートを結ぶことに関心のある社会人・学生

子どもと地域の課題にアートがどのように寄与できるか、複数の立場からの知見を持ち寄りながら思考し、実践する。持続的な連携関係を深めることで実践知が蓄積されると共に、新たなアクションを生む契機となる。

地域の小学校を会場とした「アートなお祭り」の実施。

福祉団体が運営する地域の子ども食堂と同日午後にアートなお祭りを準備する事前ワークショップを開催。美術・ダンス・音楽のアーティストが協働して、多様な参加者を受け入れるプログラムを構築している。

領域を横断し、複雑な背景を前提としたアートプログラムの企画立案の経験を積むことができた。

連携先や参加アーティストは継続して信頼・協働関係を築き、緩やかに繋がる人々のコミュニティを広げることができつつある。

ムジタンツがコーディネーターとなり、関係各所への事前ヒアリング、地域交流スペースを会場とした事前ワークショップ、「アートなお祭り」実践、振り返りを実施。

プラクティス② 高齢化社会

福祉施設とアートNPOのマッチングプログラム



福祉系団体職員

アーティスト（芸大生含む）

アートマネージャー

福祉とアートを結ぶことに関心のある社会人・学生

高齢福祉の現場とアートNPOが、課題やノウハウを共有し合いプログラムの開発と実践を重ねることで、双方に経験値が蓄積され、課題解決に向けた新たな視野を獲得する機会となる。

墨田区の社会福祉協議会および墨田区の一般社団法人藝とと連携し、地域福祉プラットフォームの一環としてアートワークショップを実施。

足立区内の福祉施設の中から、アート×福祉に関心をもつ施設を募り、アーティスト滞在型のプログラムを実施。

昨年度の活動を契機に今年度は足立区内だけでなく、墨田区の社会福祉協議会と連携したプログラムの実施が決まり、活動エリアの広がりが見られた。

地域包括支援センター関原との連携だけでなく、対象地域を広げ、アートと福祉の連携に関心のある地域包括支援センターや福祉施設と、アートNPOとをつなぐプログラムを実施。

振り返り

本事業では、行政区域や分野を超えて、非営利団体を含む民間組織のコレクティブ化（それぞれの専門領域を活かしたチームづくり）を行い、「現場」から「政策」につなげていくことを目指している（「アラスミ・アーツカウンシル構想」）。

「ラウンドテーブル」「行政ハブ」では、物理的なハブとしての「隅田川」を通じて、流域7区の行政や民間企業等と連携しながら、NPO法人トッピングイーストによる「隅田川怒涛」をはじめとした流域での実践へと広がりを見せている。

「民間ハブ」では、ピアレビューをきっかけにつながったNPOなど非営利団体が、翌年以降に「プラクティス」の中核団体として参画して、足立区のみならず他区の社会福祉協議会との連携事業をコーディネートするなどの具体的な成果が出ている。

これまで3年間の活動の成果として、文化政策に直接的にかかわるアート系団体のみならず、行政区域・分野を横断する **新たな文化政策の担い手** を育む（民間組織コレクティブ化）可能性が実証されつつある。